

WJOG 市民公開講座 in 岐阜

「市民のためのがん治療を考える」

WJOG 市民講座 in 岐阜「市民のためのがん治療を考える」を開催し、138名の参加がありました。

日時 平成27年3月1日（日） 午後1時から午後4時

場所 岐阜市民病院「サルビアホール」

講演① 小児がんの子どもたちの未来（岐阜市民病院小児科部長 篠田 邦大先生）



講演要旨

代表的な小児がんである小児白血病は80%が治るようになってきた。抗がん剤もよく効く。一方全員を助けることはできない。末期の子どもさんには、大切な時間を家族とより良く過ごせるよう配慮している。

小児がんの子が病気を克服して成人する姿を見るのは医療者としてうれしいことである。

その先にはその子たちが出産を経験し生命をつないでいく未来がある。

講演② 抗がん剤治療、そして私の青春

（がんサバイバー・ピアサポーター研修生 宗像 若菜さん）



講演要旨

高校2年生の時にがんを発病し、心身共にたいへんつらい思いをしたが、手術、抗がん剤治療を経てがんを克服することができた。こうして皆さんにお話ができるのも過去のかげがえのない時間があったからと思えるようになった。がん患者さんに対して社会の一人一人がサポーターになってください。

講演③ 抗がん剤治療を受けるということ、男として・父として (特定非営利活動法人がんサポートセンター副理事長 横山 光恒さん)



講演要約

ばりばり働いていた30代でがんを発病、右腕を切断する手術も選択肢にあったが、抗がん剤の大量投与を選択し、腫瘍が縮小した。医療に命をつないでいただいたと感謝している。闘病中は心身共につらく、仕事ができなくなる経済的な不安もあったが、まだ小さかった子どものためにもと頑張った。子どもに残せるのは生き様。現在はピアサポーターとしていろいろな活動をしている。

特別発言 湘南ベルマーレフットサルクラブ選手 久光 重貴さん (日本肺癌学会肺がん医療向上委員会広報大使)



発言要旨

平成25年に肺がんと診断された。再びフットサルがしたい。そのためには生きなければならないという強い気持ちを持って抗がん剤治療に臨み、再びピッチに戻れるまで回復した。これも医師をはじめたくさんの人の支えがあったからと感謝している。今は自分が頑張る姿を見せることで、がん患者に希望を与えたい。フットサルもがん治療もチームで取り組む点では同じ。共に前進しましょう。

特別講演 「抗がん剤は効かない」の罪―「がん放置療法」は「市民のための」がん治療か―
(日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科教授 勝俣 範之先生)



講演要旨

「がん放置療法」は関連本がベストセラーになるなど注目を集めているが、がんを放置することは極めて危険であることはデータや多くの事例から明らかである。正しい情報を得ることと、最善を期待し最悪に備える必要がある。そのためにも医療者や家族、患者会などの良い味方を見つけたり、自分が大切にしたいことや生活の質について医療者と話し合うようにするとよい。

パネルディスカッション 「市民のためのがん治療を考える」



パネリスト 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科教授 勝俣範之先生
湘南ベルマーレフットサルクラブ選手 久光重貴選手
がんサバイバー・ピアサポーター研修生 宗像若菜さん
特定非営利活動法人がんサポートセンター副理事長 横山光恒さん
岐阜市民病院小児科部長 篠田邦大先生

パネルディスカッションの要旨

講演した各講師にコーディネーターから補足意見を求める質問が出され、意見が交換された。また、がん治療に関する情報どこから得ているかという参加者席への問いに対して、主治医等の医師をあげる参加者が多かったが、インターネット、店頭の本をあげる参加者も少なからずあった。インターネットの情報や著者が個人の本には科学的根拠のないものもあるので注意が必要。やはり主治医等に訊くのがよい。不安が残る場合はセカンドオピニオンを求めるのもよいし、十分に主治医と話す時間がない場合は、ゆっくり話が聞ける時間を作ってもらうなど工夫するとよいなどの意見がパネリストから出された。



司会・コーディネーター

岐阜市民病院診療局長（がんセンター） 澤 祥幸先生
岐阜市民病院血液内科部長 笠原 千嗣先生

